

令和8年度 上武大学 大学院経営管理研究科 シラバス

講義番号	授業科目名	法人税法演習Ⅰ・Ⅱ		担当教員	岩下 尚義		
	英語授業科目名	Seminar on Tax Law Ⅰ・Ⅱ		単 位	4	学 期	通年
対象年次	1・2年次	クラス指定		他との関連			
履修条件	① 大学学部での履修や実務経験等を通じて基礎的な租税法に関する知識を修得していること。 ② 財務会計特論A, Bを履修すること。						
テーマ・副題	高品質の学術論文の完成						
授業の教育目的・目標	修士論文作成のための指導を行うが、特に、税理士法7条2項に基づいて国税審議会の認定により税理士試験の科目免除を目指す受講生のために、同上同項に規定する「税法に属する科目等」のうち「法人税法」の分野に特化した研究論文を作成するための指導を行う。						
授業の理解度の到達目標	高品質な論文には有用性、適時性、独自性が求められる。研究テーマの問題意識（なぜ問題か、現に問題として認識されているか、どこまで解決されているか等）を明らかにすることで有用性を確保し、その解決に向けての法的思考力を醸成する。実践的な論文作成技法の修得を図る。						
授業キーワード	租税法, 法人税法, 法的・論理的思考						
授業の内容	主に各自研究テーマに関する租税法論文のレビューを通じた修士論文の作成指導						
授業の方法	① 租税法論文作成のための講義（法的思考, 法解釈, 法人税法に関連した判例） ② 受講生による租税法関連論文の先行研究・判例研究の発表と討議, 修士論文の発表と討議						
授業展開	【 演習Ⅰ 】 < 前期 > 1. 演習ガイダンス 2. 研究計画書の発表と意見交換 3. ～5. 租税法論文とは 6. ～8. 租税法論文の書き方 9. ～14. 租税法論文研究発表と討議（先行研究, 判例研究） 15. 前期のまとめ < 後期 > 16. 研究計画書の発表と討議 17. ～29. 租税法論文研究発表と討議 30. 演習Ⅰのまとめ			【 演習Ⅱ 】 < 前期 > 1. 研究の進捗等に関する発表と討議 2. ～12. 修士論文の経過発表と討議（第1稿の発表） 13. ～15. 中間発表の準備と討議 < 後期 > 16. ～26. 修士論文の経過発表と討議（第2稿の発表） 27. ～29. 最終発表の準備と討議 30. まとめ			
成績評価方法	修士論文の内容（80%）および授業への取組み姿勢（20%）を評価要素とする。						
成績評価基準	成績は総合点で80点以上をA, 79～70点がB, 69～60点がC, それ以下をDとする。						
テキスト	なし。						
参考図書	各々のテーマに合わせ、適宜授業の中で指示する。						
準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容	毎回の授業で扱う租税法論文や判例は、発表者以外も議論できるよう全員が必ず予習すること。具体的には、先行研究である租税法論文の問題意識と結論、判例の概要と判旨を十分に理解したうえで、各々の意見を用意して授業に参加すること。						
学生へのメッセージ	生涯の研究に繋がる論文の完成を目指し、「問題意識」を持ちましょう。公益財団法人租税資料館の「租税資料館賞」等の著名な論文募集機関の賞を目標に掲げ、有用なテーマを独自の視点で論じられるよう、1年次から多くの先行研究をレビューしていきましょう。						
オフィスアワー	授業の前後または下記のメールにより受け付ける。						
連絡先	電話番号	0274-42-2828（内線：5407）		メールアドレス	iwashita@jobu.ac.jp		
人数制限	なし						